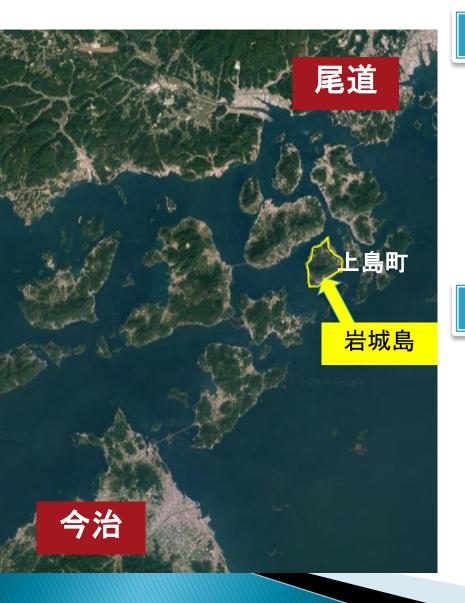


文化資源マネジメントコース 3回生

## 発表構成



#### A班

## 岩城島における塩業関連遺産ーその資源化に向けて一

- 1. 調査の動機と方法
- 2. 調査結果
- 3. 考察
- 4. おわりに

#### B班

#### 岩城島における塩田末期の様子と 地域住民との関係

- 1. 岩城島における製塩業の経営状況
- 2. 塩業従事者(T氏)の業務内容
- 3. 地域住民が見た岩城島の製塩業
- 4. 岩城島における製塩業の存在意義

A班

# 岩城島における塩業関連遺産ーその資源化に向けて一

#### ①調査動機

【なぜ"上島町"の"塩業史"を取り上げたのか】

過去

中世、『京都・東寺の荘園領であり、塩を貢納していた』 (ユネスコ世界記憶遺産 東寺百合文書より)

現在

「NPO法人 弓削の荘」にて、古代藻塩づくり体験 や見学会など、積極的な活動が行われている。

#### ①調査動機

【なぜ"上島町"の"塩業史"を取り上げたのか】

過去

中世、『京都・東寺の荘園領であり、塩を貢納していた』 (ユネスコ世界記憶遺産 東寺百合文書より)

現在

「NPO法人 弓ド や見学会など、



写真1 東寺百合文書

## ①調査動機

揚浜塩田



写真2 揚浜塩田法

## ①調査動機

#### 入浜塩田

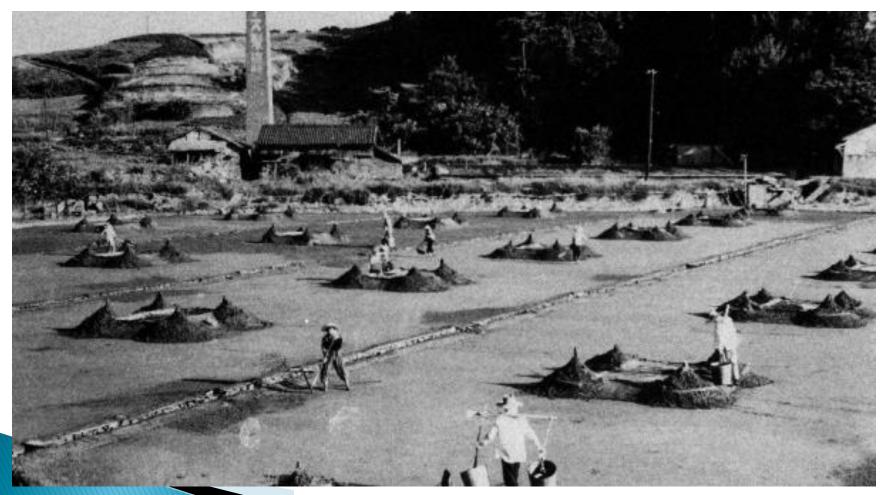


写真3 入浜塩田法

#### ①調査動機

【なぜ"上島町"の"塩業史"を取り上げたのか】

過去

中世、『京都・東寺の荘園領であり、塩を貢納していた』 (ユネスコ世界記憶遺産 東寺百合文書より)

中世・近世の塩田に関する遺跡についてはほとんど分かっていない。



現在

「NPO法人 弓削の荘」にて、古代藻塩づくり体験 や見学会など、積極的な活動が行われている。

### 1-①調査動機

今まで分かっていなかった歴史を 私たちの調査によって明らかにすることは、

上島町における塩文化が断続的なものではなく、 歴史に裏打ちされた継承性のある文化

と言う事ができる。



地域のアイデンティティや価値を高めることに繋がる。

# 1. 調査の動機と方法 ②今回の調査の目的

塩業関連遺産としての資源化・価値付けを試みる

現在、塩田跡として認識されていない場所を調査し、塩業の痕跡を探る。

昨年の調査を継承し、将来的に上島町全体の塩業史を明らかにするため、今回は岩城島を対象に調査する。 (昨年度は生名島・佐島を調査)

### 1-③調査方法

#### ① 情報収集

塩田跡と関連する施設等跡を見つけるための手掛かりを収集する。

史料や地誌、塩田地地図、発掘調査報告書など。

#### ② 調査地選定

塩田として利用していた可能性の高い場所を検討する。

塩田の記述のある場所や、塩田に必要な広い平坦面を有する場所より選別。

#### ③ 現地踏査

上記の事前調査を基に現地を歩いて調査する。

### 1-4調査地の選定

調査日:2019年8月、10月、1月

#### 【岩城島】

- 1. 掛之浦
- 2. 船越A
- 3. 船越B
- 4. 長江
- 5. 小漕
- 6. 赤石
- 7. 西部

#### 【生名島】

- 8. 恵生
- 9. 深浦

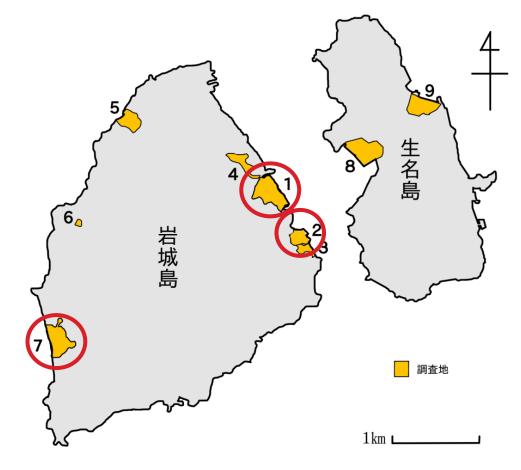


図 1 調査地分布

## 2. 調査結果

## 1掛之浦塩田跡

- ▶ 調査地点:岩城総合運動場周辺 上島町生名岩城5585
- ▶ 現在の利用状況:総合運動場と養魚場に利用されている。

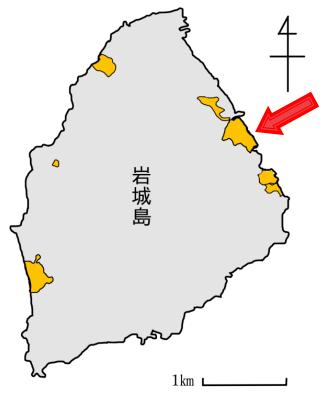
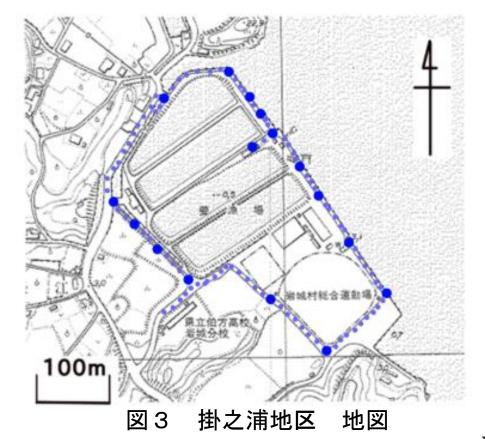
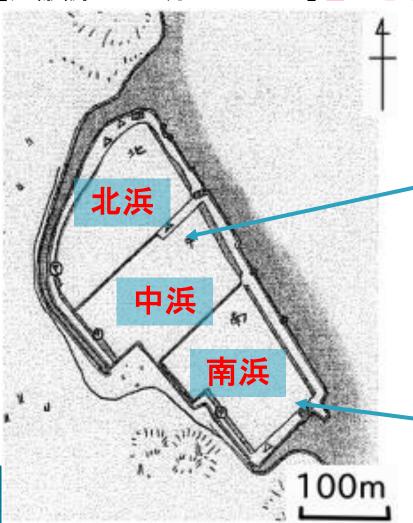


図2 掛之浦塩田跡の位置



## 2-①掛之浦塩田跡

【文献調査から分かったこと】塩田地地図に記録有り。北浜・中浜・南浜がある。



【本調査結果】塩田の痕跡(形)



写真 4 養魚場(北浜跡·中浜跡)



写真5 総合運動場(南浜跡)

### 2-①掛之浦塩田跡

【文献調査から分かったこと】

天保4年巳九月吉日(1833年)と銘文のある<mark>献灯一対</mark>が存在。掛之浦塩田の開発成就・竣功がこの時であった。(岩城村誌下巻)

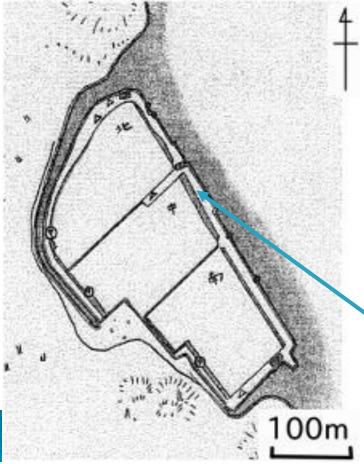


図5 塩田地地図「岩城塩田」

#### 【本調査結果】塩田の痕跡

- 献灯・・・岩城村誌に記述のあった 献灯一対が現存。



写真6 献灯一対

#### ふな こし

## 2-②船越塩田跡

調査地点:(株)イワキテック周辺 上島町岩城6017 現在の利用状況:株式会社イワキテック

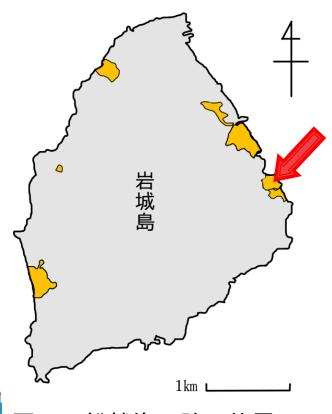


図6 船越塩田跡の位置

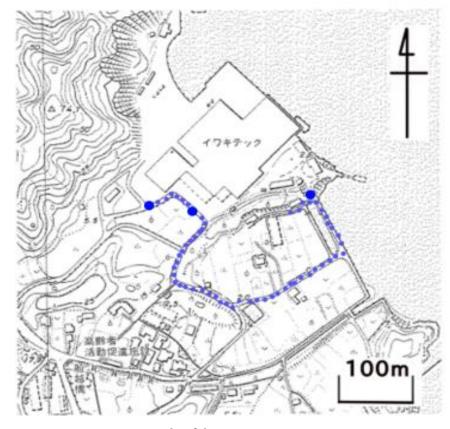


図7 船越地区 地図

## 2-②船越塩田跡

#### 【文献調査から分かったこと】

- •天保5年(1834年)、塩田の開発に着手。(岩城村誌下巻)
- ・塩田地地図に記録有り。

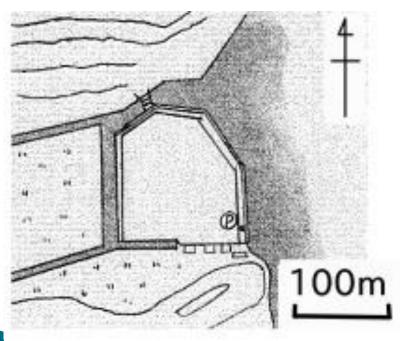


図8 塩田地地図「岩城塩田」

写真7 積善山から見た(株)イワキテック

#### にしべ

## 2-③西部地区

- ▶ 調査地点:西部八幡神社周辺 上島町岩城3288番地
- ・現在の利用状況:家屋・果樹園・畑

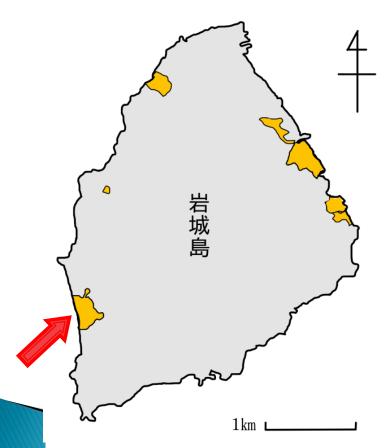


図9 西部地区の位置

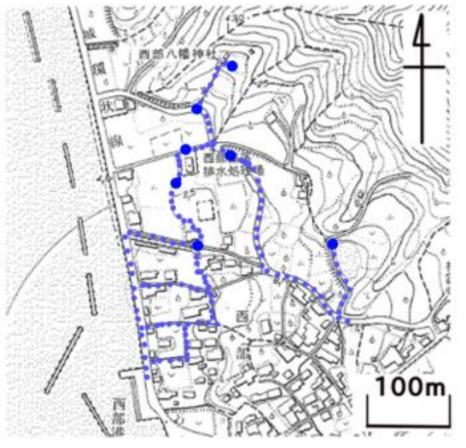


図10 西部地区 地図

### 2-③西部地区

#### 【文献調査から分かったこと】

西部には古くから相当広範囲な塩浜があった。

(伊予国岩城島小泉一方分等天役浜数注文)

「浜床」という小字がある。これは揚浜塩田の名残である。(愛媛県史 地誌Ⅱ)



図11 浜床と呼ばれていた周辺

- ・情報提供(教育委員会有馬さん) 排水処理場、もしくは水道管工事の際に硬い面があったとの情報あり。 浜床と思われる。
- ト情報提供(住民Fさん) 「浜床」と呼ばれていた地区は おおよそ排水処理場周辺である。

西部排水処理場の周辺が 塩田に関係している 可能性が高い。

## 2-③西部地区

#### 新たな遺跡を発見しました!!!



図12 遺跡の位置

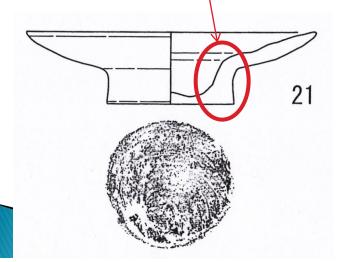


写真8 土器を発見した果樹園

## 2-③西部地区



写真9 今回採集した土器



 採集した土器 12世紀の土器(坏)の底部である。 これは、西部が文献に登場する 時期と一致する。

近隣の遺跡(重山宮裏遺跡)から出土したものと類似している。

この他にも多数の土器を採集したが、全て、中世以降のものである。

## 2-3西部地区

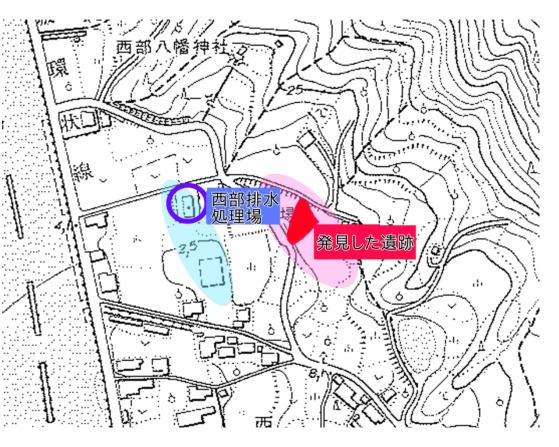


図14 浜床と呼ばれていた周辺と遺跡の位置

浜床と呼ばれていた地域 (西部排水処理場あたり) と、今回発見した遺跡は位 置が近く、

関係性が高いと考える。

今回発見した遺跡は、 塩業に従事していた 人々の居住区 であったと推測される。

## 3.考察

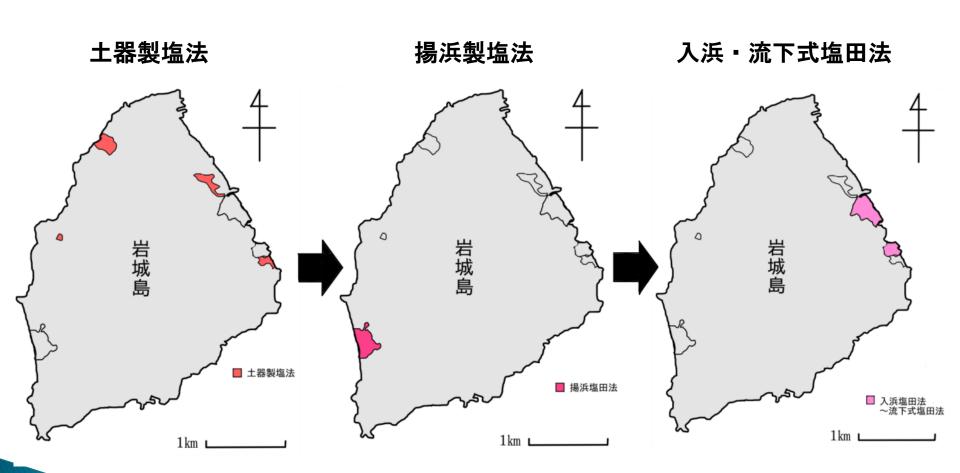


図15 岩城島における塩業の変遷

#### 3. 考察

塩田地地図と現在の地図を重ね合わせてみると区画に大きな差が見られた。現在残っている区画が、塩田当時のものを残したものかどうか課題となる。

#### 【掛之浦塩田跡】



図16 掛之浦塩田跡 地図重ね合わせ

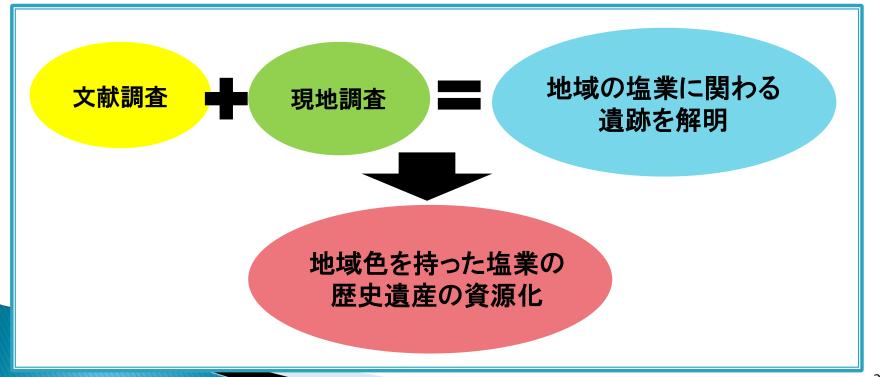
#### 【船越塩田跡】



図17 船越塩田跡 地図重ね合わせ

#### 4. 小結-資源化にむけて

- 本調査で岩城島における塩業史の個別的事実が明らかになった。(=資源化に向けた第一歩)
- 資源化は、活用の大前提である。注目すらされない対象を資源化することに大きな意味がある。



B班

## 岩城島における塩田末期の様子と 地域住民との関係

#### 1. 岩城島における製塩業の経営状況

- ・新浜(船越塩田)は、当時、現・三浦家住宅に居住する 有力者と、北浜の頭領であった大島出身者が、荒地と なっていたかつての塩田を再整備して経営を開始。
- ・北・中・南浜も、島内の有力者による経営だったはず。
- ・全国的に塩田が消滅した1971年まで、岩城島において 塩田が存在していた。
- ただし、塩田経営者の子孫で、現在、岩城島内に居住する者はごくわずかと思われる。

#### 2. 塩業従事者(T氏)の業務内容

T氏:1937年生。塩田業務に従事(新浜)。

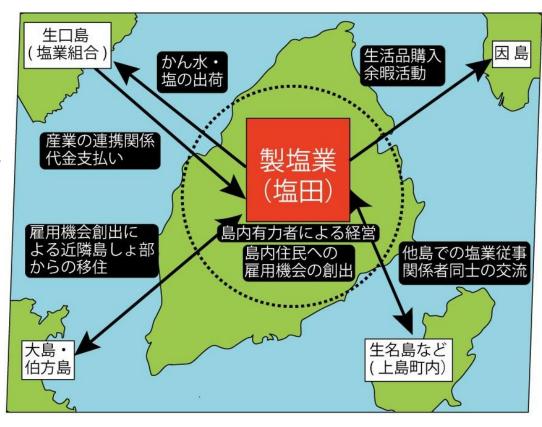
- •中学卒業後、塩田業務に従事する近所の知人より勧誘。
- 新浜の従事者は計5人で、T氏は最年少のため塩づくり 以外に食事作りや水くみ、風呂焚きなどの業務も担当。
- ・休日の数は、おおむね、盆と正月の数日と、作業のできない雨天日のみ。
- •T氏としては、労働内容を考えると万人がなりたい職ではないはずで、収入が極端に良いという印象はなく、土木業従事者と同じ程度のイメージであった。

#### 3. 地域住民が見た岩城島の製塩業

- •A氏(1932年生)、B氏(1933年生)、C氏(1942年生) の3氏より聞き取り。
- 塩田業務従事者の子どもと遊ぶ際、万鍬をかく作業を 手伝った経験がある。中学生の頃には、北浜で小遣い 稼ぎをする同級生もいた。
- 子どもの頃に塩づくりをした記憶がある。
- ・作業と作業の合間の日中に休憩する塩田業務従事者は、 日中に作業する農家からは特殊な存在に見えたのでは。
- 島外の塩田業務に従事する人も複数存在した。
- ・同年代の間では、高い給料が得られる職とのイメージ。

#### 4. 岩城島における製塩業の存在意義

・製塩業の存在は、産業としての経済的価値にとどまらず、島内外での人的交流を促す機能も果たし、瀬戸内海の島同士を結び付ける役割を担っていたと考えられる。



→塩田跡地に関する調査とあわせて、塩業の歴史を <u>文化資源化</u>し、地域のアイデンティティや価値の向上へ。

#### 上島町における文化資源としての 製塩業の歴史と その保全・活用について



ご清聴ありがとうございました。